

第1回 ボランティア交流会

日時：平成29年10月24日（火）14：00～17：15

場所：ケアポートみまき ふれあいホール

参加者：CP みまき ボランティア10名 職員10名

CP 庄川 ボランティア10名 職員5名

CP よしだ 職員2名

講師：身体教育医学研究所 朴 相俊

◇スケジュール

13：00 庄川ボランティア 施設見学

13：30 みまきボランティア 受付

14：00 開会

自己紹介

14：15 講演『100年人生、健康に生きる秘訣』 朴 相俊氏

15：10 ワークショップ

① ボランティアをはじめたきっかけ

② ボランティアをして困っていること

16：10 休憩

16：20 ③ ボランティア活動を活性化するには？

16：50 グループのまとめ発表

17：15 閉会・懇親会

◇朴先生講演『100年人生、健康に生きる秘訣』

0～24歳・・・春

25～49歳・・・夏

50～74歳・・・秋

75～100歳・・・冬

*健康に生きていくために、秋～冬にあたる時期に何が必要か？

① 笑顔（心理的ゆとり）

② 前向きな生き方（精神的な豊かさ）

③ つながり（人間関係）

→あと2項目あるが、残りは11月の交流会の中で説明予定。

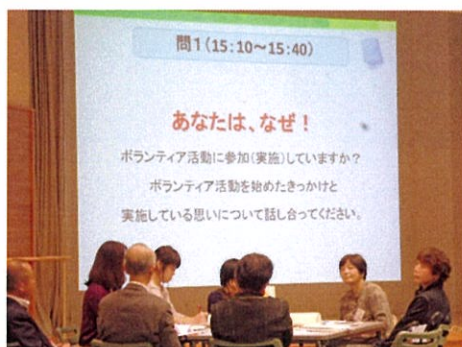


◇ワークショップ

庄川・みまきのボランティアと職員が4グループにわかれ、各テーマについて話し合いを行なった。

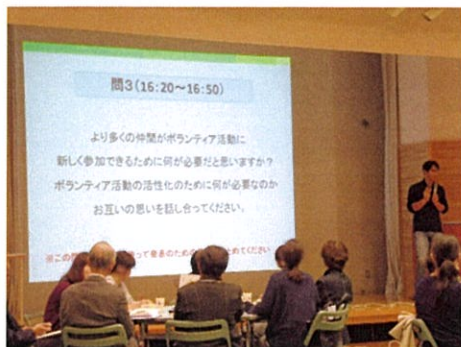
- ① ボランティアを始めたきっかけ
- ② ボランティアをして困っていること

→各テーマについてそれぞれの思いを話し合い、ボランティアに対する思いや悩みを共有する。



③ ボランティア活動の活性化のために何が必要か？

→一人一人が付箋に意見を書き、グループごとに模造紙に貼って話し合いながら意見をまとめ、グループごとに発表する。



○ボランティア活動の活性化のために何が必要か？

< 1 グループ >

◎活性化

- ・有償ボランティア
- ・ボランティアコーディネーターの配置
- ・ポイント制（やりがいになる）
- ・ボランティアは特別なことではないと伝えたい。
- ・男性ボランティアがいると活性化につながる。
- ・活性化のために何が必要か話し合う機会をつくる。
- ・講習会（社協・施設で）

◎若い世代へ

- ・気軽に体験することができる（きっかけづくり）

◎声かけ

- ・友人への声かけ、あまりいそがしくない人への声かけ
- ・婦人会、女性の集まり、老人会へ声をかける

◎仲間づくり

- ・料理教室
- ・お楽しみ会を年1回行い、話し合いの場を持つ。
- ・ボランティア仲間を大切にする。
- ・趣味や特技を活かす。

< 2 グループ >

◎情報発信

- ・ボランティア窓口をはっきりとする。
- ・募集をわかりやすくする。ボランティアに必要な情報を発信する。回覧板でまわす。
- ・養成講座

◎仲間づくり

- ・声かけ。友人を誘う。
- ・口コミ。

◎楽しみがある

- ・楽しいことをする。
- ・お茶飲み会、お食事会。
- ・旅行や自慢話をするお話会
- ・利用者から戦争の話聞く。
- ・子供も連れていける。

◎ボランティアリーダー

- ・尊敬する先輩がいる、教えて下さる先生がいる。
- ・最初は2人で活動して、その後1人で活動できる仕組み。

< 3 グループ >

◎ボランティア活動を知ってもらう

- ・ボランティアの楽しさを伝える。
- ・短い時間のボランティアを募集する。
- ・男性にも声かけをする。
- ・ボランティアの横のつながりを大切にする。
- ・ケアポートでの活動を見学する機会をつくる。

(地域での呼びかけがあるといい)

- ・ボランティアの活動内容を伝える。
- ・講習会をしてグループ作りをする。

◎魅力づくり

- ・ポイント制
- ・ボランティアの手配センター
- ・ボランティアグループのお楽しみ会
- ・ボランティアの特技などを登録しておく。

◎きっかけづくり

- ・生涯学習の活用
 - ・ボランティアを苦痛にしてはダメ。
 - ・いきいきサロンへの声かけ
 - ・生涯学習受講者の発表の機会をつくる。
- (施設からの声かけ)

< 4 グループ >

◎つながり

- ・飲みにケーション (複数回答あり)
 - ・横のつながり (複数回答あり)
- (つながり続ける)
- ・ボランティアが楽しみなつながりになるといい。

◎ボランティアグループ

- ・気軽に入会できる。
- ・老人会・常会を続ける。
- ・勧誘方法を考える。

- ・気軽にボランティアに参加してもらう。
- ・募集の仕方を考える。(インターネットなど)
- ・グループのしほりを少なくする。しがらみを持たない。
- ・強いリーダーを見つける。
- ・現在のやり方を続けなければならないということを考えない。

◎施設側

- ・新しいボランティアを考える。
- ・ボランティア活動の働きや意義を宣伝する。
- ・スタンプ制(入所優先)
- ・職員がいつもボランティアを笑顔で迎える。
- ・ボランティア体験を楽しくしてもらう。
- ・施設側からも働きかけをする。活動への呼びかけ。
- ・若い人のグループ(ママ友など)に声をかける。
- ・若い人がやりたいことを引き出すコーディネートが必要。